

第9回 昭和村統合小中学校建設委員会

令和6年3月27日 午後7時00分~午後8時55分
昭和村公民館 大会議室

1. 開 会

出席者 委員 28名

事務局 4名

2. あいさつ 委員長 堤 盛吉 (村長)

役場庁舎二期工事が終わり、すべての工事が終わり完成した。学校建設においてもより良い学校の建設のため、引き続き慎重なご審議をいただきたい。

3. 議 事 進行：堤 委員長

(1) 今後の進め方について

- 協議事項(2)の①から④までの各項目について協議し、(2)①から③までの3項目についてこれまでの委員会の検討方針を変えないことと決定し、(2)④は継続審議とした。

《協議結果》

- 協議項目(2)①から(2)③までの各項目は次のとおり決定した
 - (2)① 小学校を統合した形での学校建設について検討を進めていく。
 - (2)② 在り方検討委員会で提言された「新たな場所に」という文言にとらわれず、小中一貫校の新たな校舎の建設について検討していく。
 - (2)③ 村内すべての小中学校を統合して新たな学校を建設する。
- 協議項目(2)④は次のとおり継続審議とした
 - (2)④ なお意見集約が必要なため、現地調査を行った後、次回会議以降の継続協議とした。

(2) その他

○ 現地調査について

日中午後1時から4時の間で、平日と土曜日の2回に分けて実施したい。場所は当初7候補地の中から5か所程度に絞る。いずれか一方の日に参加をいただきたい。

実施日 4月下旬の実施を予定

○次回会議日程 現地視察後に改めて調整

4. 閉 会 副委員長 片柳 悦夫 (村議会議長)

【別紙】

第9回 昭和村統合小中学校建設委員会 議事概要

議題 (1) 今後の進め方について

委員長) それでは、協議項目『(2) 決定事項のさかのぼりについて』から協議を進めて行きたい。

協議項目

(2) ① 小学校の統合決定自体を再検討するのか

■事務局説明

説明会やアンケートでは反対という意見もあったが、学校の在り方検討委員会において検討され、統合するという方向を示しているとおりで、本建設委員会でもその方向性を踏襲して統合をしていくことしたい。

■採決

委員長) 何かご意見があれば挙手を願う。

特になし

委員長) それでは、これまで通り小学校を統合した形での学校建設について検討を進めていくこととしてよろしいか。

委員) 異議なし

協議項目

(2) ② 小中学校の一貫教育を再検討するのか

■事務局説明

小学校の統合に向けた検討委員会において様々な議論を経て、「昭和村の小学校3校を統合して1校とし、新しい場所に中学校と一体となった校舎を建設し、郷土愛を育む小中一貫校を作る」として提言をいただいたもの。様々な議論をして示された方針であり、小中一貫校の再検討は必要ないと考える。

■議事概要

委員) 提言の文言の中に『新しい場所に』という表現があるが、遵守するならば既存の施設が検討から外れてしまうのではないかと。在り方検討委員会の提言について建設委員会ではどのように検討するのか。

事務局) すでに出された提言の是非について検討することはしない。一つの考え方として、既存の場所に3校が統合した場合、必ず通う学校が『新しい場所に』なる方がいる。

委員) 『新しい場所に』という文言は、現存の校舎を活用するのでは、検討委員会で考える学校の実現は難しいという判断のもと、書き加えられた経緯がある。様々な制約なく新たな学校を建設するのであれば、第一優先は新しい場所と考える。

委員) 理想としては新しい場所が良いと思うが、現実的に考えた場合、これまで示された候補地のうち既存の学校用地も検討するべきではないか。そのため提言の『新しい場所に』という部分を検討から除いてもよいのではないかと。

委員長) 先ほどの意見のとおり建設委員会では、検討委の提言から『新しい場所に』という文言を除いて検討をしていくことで良いか。

事務局) 建設委員会で検討する根拠として、検討委員会の提言の一部『新しい場所に』という文言を抜いた形で検討を進めていく。ただ、検討委員会の考えでは『新しい場

所』イコール『新築校舎』という様に捉えて『新しい場所に』と提言しているため、『既存の校舎の利活用』ではなく、『新しい校舎を建設する』という意味は継承したいがよろしいか。

委員) 候補地の検討は当初示された7か所ということか。

委員長) 候補地から再検討するのであれば、既存学校用地も含まれる。

委員) 小中一貫校について、部会、委員会、説明会では一貫校にしていきたいというように発言していたと記憶しているが、新聞報道では、小中は分けると発表されていたと思う。今後の方向についてはどう考えているのか。

委員) 当初は別々と考えていたが、少子化が想像以上に急速に進んでおり、考えを改めざるを得ない事態となっている。そのため今後の児童生徒数の推移を考えたとき、多様な学びを確保するうえでも、小中一貫の義務教育学校が良いと考える。スピード感をもって取り組む必要性があると感じている。

委員) 現在の小中の6・3制を変えるのであれば、まず住民に問う必要があるのではないか。先進事例を取り入れるのは良いが、保護者や住民に制度の変更が受け入れられるのかすごく心配。委員会で協議したから良いのではなく、しっかりと住民に説明し、理解・信任を得ていただきたい。

委員) 様々な考え方があるかと思うが、部会で議論し、建設委員会に提案し、委員会で7割の賛同を得られれば、住民周知、意見集約を図りながら慎重に進めていくものと考えている。

委員長) ご指摘の通り慎重に意見を集約しながら進めていきたい。

■採決

委員長) それでは本協議事項について、在り方検討委員会で提言された『新たな場所に』という文言にとらわれず、小中一貫校の新たな校舎の建設について検討していくこととしてよろしいか。

委員) 異議なし

協議項目

(2)③統合小中学校の建設自体を再検討するのか

■事務局説明

住民説明会で提案のあった小規模特認校について、在り方検討委員会では検討がされていなかったため、改めてすべての小中学校を統合することについて確認をしたい。

小規模特認校は学校が2校以上ある地域で、学区外からの登校を認めるもの。そのままでは消滅してしまうような少人数学校に適用されるが、群馬県では8校程度ある。いずれの学校も英語教育の特別なカリキュラムを組で、人数を減らさないよう学校運営を行っている。ただ、デメリットとして、同じ地域の子どもの取り合いとなり、ある程度の人口規模の地域では有効と思うが、昭和村に置き換えたときには、デメリットが大きいのではと考えている。1校を特認校にして残し、他の学校は統合というのは現実的ではない。

■議事概要

委員長) 住民より提案があったため、内容について説明をさせていただいた。村内すべての小中学校を統合し、新たな学校の建設について検討してきたが、改めて本建設委員会の立ち位置を確認し、委員皆さんと認識の共有を図りたい。

委員) 今後特認校の検討なしということではよろしいか。

■採決

委員長) これまでどおり、村内すべての小中学校を統合して新たな学校を建設することを検討していくこととしてよろしいか。

委員) 異議なし

協議項目

(2)④建設用地の決定を再検討するのか

■事務局説明

住民説明会等で多く意見が寄せられたことから、建設用地の決定について順を追って、決め方から再検討を行うか検討をお願いしたい。

■議事概要

委員) 決め方から決めるということは、今までの決定を白紙に戻すのか。

委員長) 委員皆さんの総意で住民説明会を開催した。いろいろな意見をいただく中で意見集約が足りなかったことを謝罪した。委員会の意見を尊重してほしいが押しつけはできない。用地の決め方について十分な議論がされなかったことは、改めるべきと考えており、再検討をしていただきたいと思う。

委員) 反対の人もいたと思うが、賛成の人もいたと思う。簡単に再検討してしまったら、またその意見に対して反対されてしまう。再検討するためには、きちんとした理由が必要になるのでは。

委員長) 議論、意見調査を十分にしないまま決定をしてしまったことが問題だった。候補地の検討はもう少し議論を深めてから行えばよかった。

委員) 今のお話は、どの時点まで戻って再検討するのか、戻る時点が問題となっていると思う。いずれの時点でも、その中で住民意見の集約が必要になってくると考える。

事務局) いろいろな意見をいただく中で、もう少し、広く議論をしていければと考える。どこまで、どの程度の内容で再検討するのか、詳細な方法を協議していただきたい。

委員) 説明会アンケートの集計で数値が示されている。

委員) 承知しているが、あくまで提出されたアンケートの件数で、全体の意見とは言えないのでは。

委員) 意見が割れそうな場合、住民説明でどの程度のラインで再検討をしていくのか。基準が曖昧だと、いつまでも不満が残る。基準を設けたうえで、再検討するかしないかの判断をしたほうが良いのでは。

委員長) 委員の7割の意見集約ができれば再検討が必要だと思う。

委員) 学校建設用地の検討をし、候補地を決定したのは、唯一本建設委員会のみ。住民説明会を経て、また同じ結果になるかは分からないが、唯一下したこの決定について、取り扱いを総括しないで再検討はできないと考える。再検討とするなら、今回の決定は白紙、無かったこととして議論をしなければならぬ。

委員) 候補地決定について優れている点を各委員に提案してもらったと思うが、その議論や投票しなかった人の意見が説明会前に議論されることがなかった。

委員) これまでの決定に対する議論をしっかりする必要があるのではないかと。しっかりと議論をしないまま話を進めては、また住民に対する説明ができない。そのため、前回の決定について議論しないまま再検討するという事は、白紙に戻すということに聞こえてならない。

委員長) 議論、意見集約が不十分だった。時間をかけて、委員会の7割の理解を得ながら再検討の議論を進めたい。

委員長) 次の建設委員会で現地視察の機会を設けることを提案したい。再検討ということは変わる可能性があるのかと問われたが、見方が変わることもある。

委員) この場では採決せず、現地視察後に再検討についての議論をしてはどうか。

委員) 一回決まったことは、再検討するという選択肢を含めて、慎重に検討が必要。個人的な意見としては再検討してほしいが、委員会としての意見集約をする必要があると思う。今は立ち止まって先々に検討しても良いのではないかと。

委員) きちんと利点を話し合わなかった。決め方に裏付けがなく理由が後付となったことが問題。ゼロベースですべての可能性を含めて、再検討しないければならぬ。

- 委員) 言葉だけで分かりづらい。もし、候補地の再検討をするなら、資料を作り直して、表にするなど一目で分かりやすくし、選定方法も消去方法など検討工夫が必要。
- 委員) 今後、候補地を決めていく話し合いが進むと思うが、忘れていけないのは、学校へ通う子どもたちが安全に通えることが重要。学校は安全な場所健康を害さない場所、健康に過ごせる学校が一番重要だと思う。
- 委員長) ご意見のとおり、安全が第一。子どもたちが通いたいと思える学校になるよう今後議論を進めていきたい。採決はどのようにしたらよいか。
- 委員) 委員会として前回の決定の取り扱いをはっきりさせたい。そうしないと、また反対の意見で決定が覆されてしまう懸念がある。再検討という真意は場所の再検討をすつとこだと思うが、しっかり前回意見について総括をしてから先に進めてほしい。
- 委員) 説明会は住民意見を聞くため行ったのではないか。そこで頂いた意見を基に、改めて委員会で議論しているのではないか。委員会での決定にこだわらず、住民意見を集約して必要なら再検討しても良いのではないか。
- 委員) 多くの意見があったことは承知している。ただ、今後も同様のことが起こった場合に、どういう基準で委員会の決定を覆すのか。多くの意見を取り入れて行くのは良いが、場所は最終的には1箇所に絞らなければならない。今回の件をうやむやにしてしまったら、また同様の問題が起こってしまう。
- 委員長) 前回決定では、メリット・デメリットの比較ができなかった。様々な裏付けをもって自信を持って候補地の選択ができるのが良いと思う。そのうえで7割の同意を得て委員会で決定をしたいと思う。
- 委員) 前回の候補地決定について、その決定の扱いをどうするか再検討するというこつとであれば賛成。
- 委員長) 一度は決めたが、議論が不十分だったので、前回決定について再度検討する。そうすることで、住民理解を得られるのではないか。
- 委員) いま「再検討します」という文言が発信された場合に、経緯や議論の内容を知らない中で村民がどのように受け止めるのか。委員会として協議内容、言葉をどのように発信していくのかを検討する必要がある。
- 委員) 今の状況では本協議事項の意見は決まらないので、先に『(3)建設候補地の再検討』から検討を進めることを提案したい。これまでの決定から、上位2箇所に絞つて検討しても良いのではないか。
- 委員) もう一度、7か所を検討する必要があるのか。議論はなかったが、資料が配られて個々考える時間があったはず。前回の決定についても尊重する必要がある。再び全ての候補地を比較検討するのは時間ももつたない。
- 委員) むしろ、再検討が決まらなければ先に進めないのではないか。
- 委員) 再検討の指し示す時点を決めることに不安があるから、それを決めるために細やかな部分として『(3)建設候補地の再意見等について』という議題があると思う。
- 委員) 住民意見は決めたことではなく、決め方への不満が大きかった。建設委員会での決定方法に不満があったと受け止めている。
- 委員長) 『(3)建設候補地の再意見等について』に進むのは賛否両論ある。本協議事項については、この場では決まらなかつと考える。そこで、議論の間口を広くして、再度協議したいかがか。
- 委員) 今の内容は広い意味での再検討と理解したが、住民周知するのか。
- 委員長) 決定事項は周知してきたが、決定しなければ周知しない。
- 委員) 候補地の一つを委員会で決定するにあたって、原案が出た時点で議論を尽くす必要があった。前回の決定はその部分を飛ばしてしまったため、それを改めてやろうということは理解できる。この委員会の究極の目標は、10年後20年後子どもたちのためになる学校建設について、みんなで意見を出し合うこと。やらなかつたことをやろうという提案は賛成。
- 委員) ゼロベースではなく、これまでの決定を基に、上位2つの場所で議論を尽くしていくことが必要。また、最大公約数的な場所を新たに示すことも考えられる。いずれにしてもより良い方向を目指すのが必要と思う。

委員) するかしないかとするならば、再検討が必要だと思う。

■採決(※決定は次回繰り越し)

委員長) 本協議項目は意見が分かれるため本日は採決せず、現地調査を行った後、次回会議以降の継続協議としたいがよろしいか。

委員) 異議なし

議題 (2) その他

① 現地調査について

事務局) 委員長提案の通り現地視察を実施したい。日中午後1時から4時の間で可能なら全員一斉参加が良いが、難しいと思うので平日と土曜日の2回に分けて実施したい。場所は当初7候補地の中から重要な5か所程度に絞る。いずれか一方の日に参加を。第10回会議は改めて設定する。

委員) 視察の際に、資料として簡単な評価項目シートを付けてほしい

事務局) これまでの評価項目でよろしいか。

委員) 候補地だけではなく、村内一円を回ってみてもよいのでは、特に通学を考えるなら必要ではないか

② 現地視察の日程について

実施日 4月下旬ごろの平日及び土曜日 午後

③ その他

委員) 職責で任命されている方もいるため、新しい委員の選考をお願いしたい。可能なら4月の現地調査から参加をしていただきたい。

④ 次回会議日程

次回会議開催日程 現地視察後に改めて調整